

「北軽井沢の記録的少雪(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

2022 年の 1 月～2 月、北軽井沢では雪がほとんど降らなかった。最低気温こそ -10°C 以下の日も多かったが、ほぼすべて快晴の日に記録されている。



表庭に比べて日当たりの悪い裏庭の雪も融けてしまい、地面が見えている。ここには、お子さん連れのお客さんの為に「森のアスレチック」が設置されているの。冬は完全に閉鎖と思っていたのだが、これなら子どもたちも遊べそうだ。



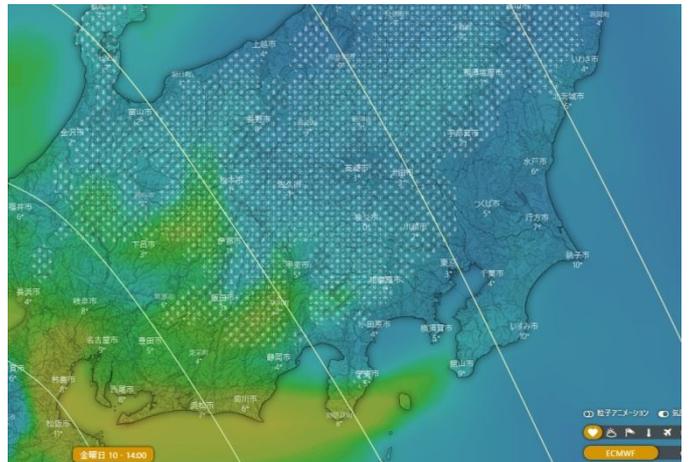
2 月 9 日には、ついに表庭の雪がほぼ完全に消えてしまった。気温は日中でも氷点下で「真冬日」なのだが、これなら外でふとんや洗濯物を干しても大丈夫だろう。毎年、このような景色になるのは、早くて 3 月下旬、遅い年は 4 月中旬頃で、まるで春のような景色だと思った。



裏庭に至っては、完全に雪が消えた。影響は野生動物にも及ぶだろう。たとえばフクロウは、雪があったほうがネズミ類が目立って、捕食しやすいらしい。春と間違えて、冬眠から覚めてしまう動物もいるだろう。



浅間山の山頂付近も、山肌が見え始めている。もちろん、気温は 0°C を上回らないので、雪が「融けた(固体から液体になった)」のではなく、恐らく昇華した(固体から気体になった)のだろう。



しかし、2 月 10 日には優勢な南岸低気圧が関東甲信全域に影響を与え、群馬県も大雪になる可能性がある。もし予報通りになれば、北軽井沢は今シーズン初の本格的な積雪になるだろう。